2008 年度

GNC 活動報告

平成 21 年 3 月

GNC
Japan
Global Network for Coexistence

人づくり事業

エコ教室

108 学校のみなさん　　23 学校のみなさん　　18 学校のみなさん

第7回エコ教室

実施日時:2008 年 9 月 3 日 10:30～16:30

会場:ツォゴさんの GNC モデル農場

参加メンバー:

GNC スタッフ(日本・モンゴル)、在日モンゴル留学生 8 名、18 学校・23 学校・108 学校日本語コース生徒各校 15 名、各校の教員

各学校から計 50 名(13 歳～15 歳)の生徒と先生方が参加し、恒例の GNC 紹介、アニメ「木を植えた男」上映、全員での合唱、記念植樹と盛りだくさんでした。

昨年に引き続き、今回も、在日モンゴル留学生が参加し、水資源の大切さ、日本での留学生活、日本とモンゴルの文化比較、日本語の勉強方法などについて話してくれ、集まった生徒たちはとても喜んでいました。留学生の名前は、テムカさん、プージェさん、ボギーさん、オチさん、テムレン(男)さん、トンガラクさん、ボルドーさん、デナさんです。既に、日本で顔見知りの留学生がほとんどで、再会を喜び合いました。ツアー終了後、テムカさんとプージェさんは GNC のスタッフになりたいと自ら申し出てくれました。またボギーさんは、GNC の活動に触発されて、自ら植林団体を立ち上げました。大変うれしいことです。2009 年も引き続き留学生会と一緒にやることを予定しています。

GNC エコツアーに参加した留学生の感想

テムカさん（千葉大学１年生）

GNCの皆さんと一緒に8月31日～9月2日、スフバートル、ダルハン、アルタンブラグ、トジンナルスに行ってきました。なんというか　皆さんの仕事に感動しました。

私はトジンナルスを見るのが初めてでした。教科書でトジンナルスという大きな森林があると書いてあるから、そう考えていました。ところが　皆さんと一緒に行って、見たトジンナルスは思っていたトジンナルスと正反対でした。でも、GNCの皆さんは　一生懸命　アカマツを植えている姿を見て感動しました。モンゴル人より心配していました。みなさんからいろんなことを学びました。

9月4日に　エコ教室で　3　つの学校の生徒たちに　木の事や水の大切さを教えました。子供たちに教えるのは初めてでした。ちょっと緊張しました。でも　できるだけたくさんの子供たちを参加させるようにしたほうがいいと思います。そのために　国立大学のエコロジーセンタでしたらどうですか？

ツォゴーさんの農場で食べた焼き肉がとてもおいしかったです。自分たちで作ったからかも？また　留学生たちで、木を植えたのが最高でした。雨が降っていたのにも関わらず、生徒たちは一生懸命木を植えていました。

9月5日　みなさんと一緒に　音楽舞踊学校　そして　108学校に行きました。108学校の昨年の写真を現在の状態と比べると全く違っていました、現在は　学校の前に森のように木が生えていました。

来年も　GNCの皆さんと一緒に木を植えたいです。そのことが未来のモンゴルの子供たちを救うと思います。

ボルドバヤルさん（横浜国立大学２年生）。

エコ教室に参加して

今日の内容が　とてもよかったです。特に、映画（アニメ　木を植えた男）を見て感動しました。外国人が私の国の環境を心配していたことを見て何もしていない自分のことを恥ずかしく思いました。私は「水資源の大切さ」というテーマで発表しましたが、以前から水資源の大切さを知っていたわけではなく、ただ、この発表の準備のために情報を集めていた時、初めて水資源問題の深刻さを知りました。生徒たちが、森の大切さを教わって、実際に木を植えるとき、水を真面目に運んできて　一生懸命にやっているのを見て、今日のエコ教室の成果を感じました。今日一日　とても楽しかったです。今後も　GNCの活動に参加していきたいと思っています。

トゥブ県バヤンチャンドマン村　モンゴル国立技術専門学校訪問　2008 年 9 月 2 日

訪問日：9 月 2 日
参加メンバー：
学校側：ワンダン校長
GNC 側：宮木・矢野・ツォゴ・後藤（KSG）

今回は初顔合わせですので、まずはGNCの活動紹介を行い、その後、ワンダン校長により、技術専門学校の紹介が行われました。その後、今後具体的に何を一緒にできるかを検討しました。その中で、こちらからは、「技術専門学校でもエコ教室を開催したい」と提案しました。好感触で、来年からエコ教室をここでも行うことを合意・決定しました。具体的な内容については GNC モンゴルを通して今後つめることになっています。

108 学校 訪問 2008 年 9 月 4 日

訪問日：9 月 4 日
参加メンバー：
学校側：ルハグヴァ校長、先生方
GNC 側：宮木・矢野・トゥプシン・アムガ・バトゾリグ・テムレン

GNC がこれまで支援してきた GNC ラボ（環境教育専用の教育施設）の見学を行いました。屋根の完成にあと約 30 万円が必要とのこと。この 1 年は資金不足のために建設がストップしていました。そこで年内の資金援助を約束し、その後、実施されました。スケジュールの関係で今回はあまり長い時間はいられませんでした。来年はオープンセレモニーを行うのでゆっくり来て欲しいと言われました。

その後、11 月には、ルハグヴァ校長とトゥーヤさんが来日し、矢野、宮木が東京見物にお付き合いしました。新宿の高層ビル群を見物し、新宿御苑でのんびりし、その後、新宿の一番にぎやかな場所で記念撮影をしました。お二人とも大いに楽しんでいらっしゃいました。

2008 年 11 月ルハグヴァ校長先生とトゥーヤさんのお二人が来日（新宿御苑にて）

18 学校訪問 2008 年 9 月 5 日

訪問日：9 月 5 日

参加メンバー：

学校側：ボロルマ校長（新）、先生方

GNC 側：宮木・矢野・ツォゴ

毎年お会いしていたエンフバット校長がお辞めになり（出世されました！）、新しい校長が就任しました。今回は新校長との初顔合わせでした。GNC とのコラボレーションに大変意欲的で、エコ教室、校内緑化の継続を確認しました。その他にもお互いにアイディアを出し合って、今後何か新しいこともはじめようということになりました。

砂漠化防止ポスター配布

ジオエコロジー研究所

訪問日：9 月 5 日

参加メンバー：

GNC 側：宮木・矢野・ツォゴ・アムガ・バトゾリグ

共同で作成した砂漠化防止啓蒙ポスターを担当者に 200 枚渡しました。今後、関係者・関係機関を中心に幅広く配布してくれることになりました（左写真）。

なお、在日モンゴル留学生会の学生たちが出身校を中心に配布協力してくれることになり、その成果は随時連絡してもらっています（右写真 2 枚）。

ハワリンバヤル 2008

写真　中央　駐日モンゴル国特命全権大使レンツェンドー・ジグジッド氏もGNCブースへ、

実施日：5 月 4 日・5 日

実施会場：東京都練馬区　光が丘公園

毎年恒例となったハワリンバヤル（モンゴルの春祭り、在日モンゴル留学生会主催）に出展しました。GNC は開催実行委員会のメンバーとして、実行委員会直営店の岩塩やハワリンバヤルオリジナルグッズの販売のお手伝いもしました。毎年、多くの懐かしい方々とこの場所で再会できます。また、準備のために、みんなで協力しあうことも大きな楽しみです。

森づくり事業

現在、資金源別に大きく 3 種類の森づくり事業をすすめています（規模、名称については以下の通り）。3 ヶ所とも、セレンゲ県に位置しています。

GNC植林規模　2004 年～2008 年植林　TOTAL　150ha　45万本

日モ友好の森　　100ha　30 万本（2004 年より緑の募金直轄事業）

GNC共存の森　　20ha　 6 万本（2008 年より　（株）KSG インターナショナルも参加

生命の森　　30ha　 9 万本（2007 年より　トライウォール株式会社、全国の葬儀社による植林事業）

①2004 年5月植林　 1Oha　 3 万本　シベリアアカマツ

②2004 年9月万博植林1Oha　 3 万本　シベリアアカマツ

③2005 年9月植林　 1Oha　 3 万本　シベリアアカマツ

④2006 年5月植林　 2Oha　 6 万本　シベリアアカマツ

⑤2007 年5月植林　 5Oha　 15 万本　シベリアアカマツ　カラマツ

⑥2008 年5月植林　 5Oha　 15 万本　シベリアアカマツ　カラマツ

エコツアーでは、セレンゲ県のトジンナルス、および前回から新たな植林地となったホタカ・ウンドゥルを視察し 2004 年の春・秋（万博）、2007 年春、2008 年春（50ha）の植林地を視察し、定点観測を実施しました。

2009 年は 20ha（緑の募金）+20ha（企業）に 12 万本植林、万博植林地には 6 年もののアカマツを 500 本植林の方針です。

視察観測実施日:8 月 31 日～9 月 1 日
参加メンバー:
ジャムスランさん（森林動物センター長）
GNC 側:宮木・矢野・ツォゴ・トゥプシン・アムガ・バトゾリグ・エンフトゥーシン・後藤（KSG）・トクソ（運転手、実はトゥプシンさんの実兄）
学生:テムカ・プージェ・ボギー・オチ・ツェングーン

2008 年 5 月　現地学生らによる植林作業の様子

2004 年 5 月 GNC 初の植林地　順調に生長しています。

2009 年度からの森づくり

モンゴル国立大学生物学部森林学科との森づくりスタート

左から 2 番目バータルビレグ教授（森林学科長）

訪問日：9 月 5 日
参加メンバー：
モンゴル国立大学側：バータルビレグ教授（森林学科長）
GNC 側：宮木・矢野・ツォゴ・アムガ・バトゾリグ

まず、お互いに GNC の活動紹介、モンゴル国立大学森林学科の紹介を行ないました。森林学科の苦しい財政事情がよくわかりました。また目指していることが同じだということを確認しました。その上で、今後の協力関係について話し合い、お互いに全面的に協力してゆくことで合意しました。

2009 年から国立大学所有の土地 10ha（トゥブ県バットツンベル村）で植林をスタートさせることが決定しました。今後、安価な苗木の供給が可能な範囲で段階的に拡大してゆく方針も確認しました。また、今後はヘンティ県のダダルにおいても植林、苗畑づくりを行うことを決定しました。詳細は、GNC モンゴルおよび尾上さんの視察を経た上で話し合い、2009 年へ向けて、合意書を取り交わすことになりました。また、今後のエコ教室への全面的な協力も約束してくれました。

モンゴル国立大学演習林　2009 年植林候補地

バヤンチャンドマン村での森づくりスタート

バヤンチャンドマン村では苗畑造成事業がスタートしていますが、今後は、エコ教室、森づくりの事業も順次進めてゆく予定です。

今後の企業との森づくり

企業との連携による森づくりの規模が年々拡大してきました。記念すべき第 1 号であるトライウォールの皆様は、毎年春に植林地の視察を行っています。その際は、GNC モンゴルのスタッフが諸々の準備、案内を行っています。また 9 月のエコツアーには、2 年続けて KSG インターナショナルの方にお一人ご同行いただきました。少しでも緑を増やすために、企業の皆様にご協力いただけることは大変ありがたいことです。実際にどういう場所でそのように植林をしているのか、直接ご覧いただけるに越したことは無いと GNC としては考えています。また SOTO 禅インターナショナルからの支援もスタートしました。SOTO 禅インターナショナルの広報紙に寄稿を依頼され、代表の宮木が、GNC の紹介と活動報告を目的とし寄稿しました。このようなことから、思わぬところで GNC の認知度がアップする可能性があります。

左：トライウォール株式会社モンゴルエコツアー

中：GNC エコツアーに同行された（株）KSG インターナショナルの後藤さん

右：2009 年春植林予定の SOTO 禅インターナショナル

セレンゲ県アルタンブラグ植林地へ見学した感想

プージェー（バトナサン・プレブチュルーン）さん

この夏の帰国期間を有効的に過ごそうと思い、日本でのモンゴル留学生会から行った夏のワークショップに参加しました。夏のワークショップの一部は GNC という民間公益団体が行う木を植える活動でした。この活動に参加できたことは、私にとって好い機会だったと思います。

前、国にいた時も、来日後の日本語学校にいた時も、私は木に関して何も関心がありませんでした。私は、今の住んでいる山口県の徳山市には今年の 4 月に来ました。住んでいる場所も、通っている学校も、木で囲まれているので木に関して関心を持つようになったのです。日本の全面積の 60%は森であることやその多くを人の手で植えたことを聞いて驚きました。人口が多い国にとって、その木を植えている土地に建物を建てたり、お米を作ったりした方が有利ではないのかなと思っていました。しかし、あとから日本人は木や人間や自然はつながっていることに対して非常に認識が深く、そして木を愛し守っていることが分かりました。

そして私は、夏国に帰る間に、木や自然環境について子供たちに話してあげたいと考え、その思いが私を GNC のスタッフとして活動することに導いてくれました。

8 月 31 日から 9 月 2 日の間、セレング県のアルタンブラグ市の近くにある「トゥジーンナルス（松）」に行ったことは、私にとって良い勉強になり、多くのことが分かりました。以前トゥジーンナルスには木がいっぱい生えていましたが、人の間違った行為により、ほとんどの木がなくなっていました。そこで、まず土下の凍土を守ることは一番大事だということを、一緒に行ったツォゴーさんやトゥヴショーさんたちに教えてもらいました。松は一年間に 10 センチしか伸びないのです。小さい木は家畜や動物に食べられる恐れがあるので、最初の 4、5 年間はよく注意を払わなければなりません。

モンゴルの砂漠化しつつある自然を守るために、毎年モンゴルにやってくる GNC の人々を見てとても尊重しました。自分の国の自然環境に関心を持たない人がいっぱいいる中、このように他国の自然を大切にしている GNC の人たちに感謝の気持ちでいっぱいです。

短い夏休みをお家でゆっくり過ごしたいと誰もが望むでしょう。しかし、GNC の人たちは毎年の夏休みにモンゴルへ向かい、植えた木を計ったり、世話をしたり、これからの活動や計画について話し合ったりしているのが凄いなと思いました。

最後になりますが、GNC の皆さん、ありがとうございました。これからの皆さんのご活動に、私もできるだけ参加し、手伝っていきたいと思っています。よろしくお願いします。

苗畑づくり事業

GNCは、森づくりに必要な苗木生産を行うために、トゥブ県バヤンチャンドマン村にて、苗畑造成プロジェクトをすすめています。

現在モンゴル国において植林、緑化の重要性が広く認識されはじめていますが、一方でそれを利用して自らの利益追求のために供給量と価格をコントロールする苗木会社が多くなっています。そのため植樹のための苗木を安価に安定的に入手することが以前にくらべ困難になりました。そこで森林再生、緑化を推進してゆくためにGNC自身で安価で安定的な苗木供給システムを構築する必要があると考えました。

そこで、専門スタッフの調査にもとづき、苗畑開墾場所として、ウランバートルからさほど遠くなく、かつ苗畑に適した土、環境を有し、何より自治体および地元住民ボランティアの全面的な協力が得られる場所としてトゥブ県バヤンチャンドマン村を選びました。当地には小中高の学校、および農業大学もあり、教育啓蒙、学生とのコラボレーションの可能性が高いことも好材料です。

村内苗畑地では、苗木育成のためのビニールハウスにおいてカラマツ、アカマツ、ニレ等の実生苗、くろうめのどき、野生黒葡萄等の挿木苗の生産、及び、村郊外（地名：ブルハンティンアム）の苗畑（2ha）において、主に針葉樹（アカマツ、カラマツの実生苗）の生産を行ないました。このため常駐の技術者と臨時の作業員を雇用しました。

バヤンチャンドマン村苗畑

井戸も順調に稼働しています

公園づくり事業

公園づくりも、GNCの活動の大きな柱の一つです。ウランバートルの中心に公園・植物園を作ることで、緑の大切さを一般の市民に認知してもらう、教育啓蒙的（宣伝）効果を望めます。また、モンゴル国立大学エコロジー教育センター、モンゴル国立音楽舞踊学校という未来の環境関連分野、芸術分野を背負ってゆくことになる若者を育てる場所で、その指導者、学生と一緒にアクションを起こすことの重要性は言うまでもありません。

代表メッセージでも2回に渡って取り上げましたが、2008年の中ごろに、金儲けのみを目的とした一部の勢力に、これまで一緒につくりあげてきた植物園が乗っ取られそうになりましたが、何とか守り抜くことが出来ました。（詳細は、GNCのHPの代表メッセージをご覧ください。）守り抜けたことは大きな喜びでしたが、現実の厳しさも認識させられました。両プロジェクトは相変わらず資金面でかなり厳しい状況にあり、今後、いかに安定的継続的に資金調達し事業をすすめてゆくか、モンゴル、日本両方のスタッフが目下頭を悩ませているところです。スポンサーを募るためにも、2009年度からは、エコ教室を、GNCのモデル農場ではなく、モンゴル国立大学エコロジー教育センター内のエコ植物園で、より一層規模を大きくして行い、メディアにも取り上げてもらうなど、認知度をより一層アップさせることを目指しています。

モンゴル国立大学エコロジー教育センター内　エコ植物園

2008 年夏　エコ植物園閉鎖の危機　取り壊された校舎

訪問日：9 月 5 日
参加メンバー：
センター側：ツォグバダラフ教授（センター長・生物学部長）、バザルドルジ教授（前センター長）
GNC 側：宮木・矢野・ツォゴ

　まず、エコロジー教育センターおよびエコ植物園が廃止、買収の危機を乗り切った経緯の説明が行われました。その後、エコロジー教育センターおよびエコ植物園の意義を訴えた手紙（宮木作成）を手渡し読み上げました。今後エコロジー教育センターとしては、当手紙を諸々の関係者・関係機関・メディアに公表する予定とのことです。
　その後、エコ植物園の修復作業開始と来年のエコ教室（拡大版）のエコロジー教育センターでの実施について、合意・決定しました。

　2008 年秋に　愛知の松本様よりモンゴルへ送っていただきましたモンゴリナラのドングリを　GNC　Mongolia　のツォゴさんが　農場で　ポットに植えました。その後、寒さが一段と厳しくなってからは　ウランバートルの自宅に移動し　今年は写真のように元気に発芽しました！！1 月、エコロジー教育センターに運ばれ、今後は　センター内の温室で、専門家のオユンツェツェグさんに管理していただきます。

モンゴル国立音楽舞踊学校内　庭園

訪問日：9 月 4 日

参加メンバー：

音楽舞踊学校側：ナランフー学長、先生方

GNC 側：宮木・矢野・トゥプシン・アムガ・バトゾリグ・テムレン

　学校に到着するやいなや、未来の音楽家たちによる歓迎演奏が行われ、心から音楽を楽しみました。その後、庭園を見学し、今後の方針について打ち合わせしました。機材はあるが、それを使いこなせていない、庭園の維持管理ができていないなどの問題点がはっきりしました。

　専門家を年に 5 ヶ月雇いたいとの要望が寄せられましたので、それに対して、協力を約束しました。雇用費に約 10 万円かかる見込みです。詳細は今後 GNC モンゴルスタッフとの間でつめてゆく予定です。